



利神城をめぐる 四つの時代

多くの謎を秘めた歴史と遺構



利神城跡の変遷図



史跡利神城跡保存活用計画の大綱

「利神城をめぐる四つの物語を再発見し、語り継ぐ」

- ①別所氏が居城した「中世の利神城」の物語
- ②宇喜多氏を経て池田氏が大改修した
「近世の利神城」の物語
- ③廃城後 旗本領や幕府直轄地となった頃の物語
- ④宿場町平福として最も栄えた頃の物語

NO 2
2023
令和5年5月

国史跡 利神城かわら版

編集・発行

佐用町教育委員会教育課
〒679-5380
兵庫県佐用郡佐用町佐用2611-1
☎0790-82-2424

利神城は別名「雲突城」と呼ばれ、地域の象徴としてその姿が継承されてきました。利神城は、地元にとつては児童・生徒が山登りをしたり、住民が花見を楽しんだりして身近に憩う場、日常に訪れる場であり、来訪者にとつても城郭と平福の町並みを散策できる歴史的観光地の一つでした。本号では、「利神城跡の変遷図」を基に利神城の歴史の積み重ねを紹介します。

る姫路城の支城として大改修、その後廢城に至るまでの時期。

三期目は、池田氏転封後から寛永十七年（1640）、松平氏による旗本領や幕府直轄地となつた時代。

四期目は、十八世紀中頃、播磨（姫路）から因幡（鳥取）の間を結ぶ宿場町平福として最も栄えた時代です。

◆四つの時代が形成した遺構

現在の利神城跡及び周辺においては、これら四つの時代に形成された様々な構造の断片が残され継承されてきました。

これらを保存し、適切な活用によって次世代に継承するためには、遺構の保存を前提に未だ多くの謎を秘めた各時代の背景や歴史、構造を解明するための努力を継続することが大切です。

このような観点から、利神城が構築された四期の各時代を「物語」とならえ、「保存活用計画」で、大綱を「利神城をめぐる四つの物語を再発見し、語り継ぐ」としました。「整備基本計画」はこの理念に基づき、具体的な保存と活用方策を示します。